# 上益城郡中体研

研究理事長　板床　龍哉

1　はじめに

上益城郡は、大竹紳一郎会長（蘇陽中学校）を中心に、８校１７名の研究員で構成され、教科等研究会を活動の中心として研究を進めている。本年度は、昨年度のテーマを継続し、体力づくりの意欲を高めるためには、授業にどのような工夫が必要になってくるのか、研究授業を中心に研究を進めている。昨年度の反省で、授業研を増やしたのは良かったが、事前研が不十分だったとの意見が出され、本年度は事前研にも力を入れていくという申し合わせも確認され、グループ分けもできた。夏休みには、実技指導者講習会の複講として、器械運動と体つくり運動を行った。さらに、新体力テストを２回行い、体力向上のための取組の検証をし、その効果や改善点を実践レポート研として出し合い、各校の新たな取組の参考になるようにした。

2　研究テーマ

**一人一人が意欲的に取り組む保健体育学習の創造**
**～体力づくりの意欲を高める授業を目指して～**

3　研究組織

○会　長　　大竹　紳一郎（蘇陽）
○理事長　　板床　龍哉（木山）
○部会及び研究員

| 部会 | 夏期実技研修部会 | 授業研究部会 | 実践レポート部会 |
|---|---|---|---|
| 重　点<br>事　項 | 実技研修の充実<br>・研修種目の決定<br>・講師等の確保<br>・日程、役割の確認 | 研究授業１<br>意欲的に取り組む授業づくり<br>研究授業２<br>体力向上を目指した授業づくり<br>・研究授業の提案<br>・教材教具の提案<br>・評価の実際 | 実践レポート報告会<br>・実践レポートの提案<br>・生徒の意識調査の実施<br>・記録として次年度へつなぐ<br>取組 |
| チーフ | 岩田　聡（木山） | 板床　龍哉（蘇陽） | 倉岡　武（御船） |
| 研究員 | 黒川克己（木山）<br>藤野博文（甲佐）<br>杉本卓也（甲佐）<br>服部起明（甲佐） | 武田雅裕（清和）藤原一也（矢部）<br>中尾祐毅（嘉島）佐伯美早（嘉島）<br>松本　巧（益城）岩田雅子（清和） | 村上伸一郎（御船）<br>田上大太朗（益城）<br>松尾成也（益城） |

4　活動状況及び予定

(1)　【５月２６日（火）　郡教科等研究会　半日研修（甲佐中学校）】
①役員選出
②研究テーマ、サブテーマの検討
③年間計画作成

(2)　【７月３０日（水）　熊本県中体研夏期研修会・体育実技講習会】
終日研修（菊池北中学校）本郡より２名参加

(3) 【８月２４日（月）　郡教科等研究会　実技講習会（器械運動・体つくり運動）】
半日研修（御船中学校）

御船中学校体育館において藤原一也先生（体つくり運動）、岩田聡先生（器械運動）を講師とし、実技講習会を開催した。日々の授業で直ぐに使えるような内容で充実した研修になった。

(4) 【１１月１９日（木）・２０日（金）　熊本県学校体育研究発表大会（熊本市）】
本郡より１１名参加

(5) 【１０月２９日（木）郡教科等研究会　研究授業１・レポート研１】

①研究授業
単　元　球技（ゴール型）ハンドボール
対　象　清和中学校　２年１組　男子８名　女子３名　計１１名
授業者　清和中学校　武田　雅裕　教諭

この授業では、生徒一人一人が意欲的に取り組む保健体育学習を目指した提案授業をしていただいた。小規模校での男女共修によるハンドボールの授業であったが、グループによる練習の中に練習内容や作戦などを自分たちで考える時間があり、お互いに意見を出し合ったり、注意し合ったりして意欲的な活動が見られた。

②授業研究会
○男女共修だったため、男子の運動量の確保が心配されたが、自分たちで練習内容を考えて、運動量も確保できていた。
○ホワイトボードを活用し、チーム毎に練習内容や作戦を検討しながら活動しており良かった等の意見が出された。
○少人数で、男女比も極端だったため、女子が消極的になってしまうのではないかと心配だったが、楽しそうに活動できていた。などの意見が出された。

また、授業研究会後に次回の研究授業に向けて、指導案検討会を開くことができた。

(6) 【１月１８日（月）郡教科等研究会　研究授業２・レポート研２・年間反省等】　半日研修

①研究授業
単　元　球技（バレーボール）
対　象　嘉島中学校　３年１・２組男子　４２名
授業者　嘉島中学校　中尾　祐毅　講師
②　授業研究会
③　年間反省
④　次年度への志向

授業研の前に指導案検討会を開くことができた。検討会では、めあての持たせ方や授業の流し方など多方面から意見が出され、授業者も出された意見から内容を再考することができ授業に臨むことができた。

５　まとめ

本年度も研究授業を２本行うことができた。昨年度懸案事項として上げられていた事前研も短い時間ではあったが実施することができ、今後の流れをつくることができた。これを更に充実させ、よりよいものにしていかなければならないと考えている。体力の向上に関しては、各学校で春と秋以降に年２回の新体力テストを行ってもらい。その結果と考察、取組の内容を２回に分けて各学校よりレポートし合い、自校の取組の参考になるようにした。年々体力の向上も上向いてきてはいるが、他郡市に比べればまだまだ十分な数値とは言えない状況がある。山間部の小規模校で、スクールバスが導入されてから持久力が落ちたという話もあるが、その分運動の機会を増やし、体力を維持増進させていかなければならない。